

□ふれあいとうるおいのあるまち

地域情報紙 Vol.32 新春号
No.115

はばたき

□発行 地域力推進羽田地区委員会

□編集 はばたき20編集委員会



広大な運動場

「羽田の発展は、教育の充実によるほ
かはない」と、明治36年に小野藤兵衛扇
の努力と情熱によって、羽田小学校は開
かれました。

その教育への情熱を引き継ぎ、歴代校
長や教職員が、そして子供たち一人一人が
学校を作つてまいりました。地域に愛さ
れ、見守られ、120年の歴史を刻んできま
した。

羽田の古(いにしえ)とは、受け継がれ
てきた伝統と文化、人々の思いです。新
鮮な魚介類が穫れる漁場、海苔漁場で
栄えた古から姿を変えていきながらも、
現在も「水神祭り」「羽田の祭り」など
伝統が継承されています。令和5年は、
4年ぶりに豪快で華やかな「羽田の祭
り」が開催されました。羽田の地域や学
校の歴史を調べ、昔の学校や当時の人々

喜ばしいことにこれからは集まって食
べるという子ども食堂のイベントが活発
になることでしょう。温かい雰囲気の中
での食事と交流は子どもたちの心を豊にす
るに違いありません。それでも子ども食
堂は引き続き課題を抱えており、拠点
の維持費問題や貧困児のプライバシー
についてはおうち食堂がこれを打破して
いけると信じています。PTAや子ども
会のあり方が変わっていつているように、
時代に即したボランティアの形へとアッ
プデートを続けていきたいと思つており
ます。子どもの未来を守るボランティア
をしたい人の中には家族だけでなく自
分も大切にしたい人がいます。それはと
ても健康的なことです。一人一人があり
のままの自分で、楽しみながら無理なく
できるボランティアの姿を目指していき
ます。

の工夫や努力を知り、大切にされてきた
ことを学び、羽田ならではの漁師町の風
情、人情も含め、これからは変わらずに、
羽田の古をつないでいきます。

羽田小学校といえば、空の玄関口であ
る羽田空港に最も近い学校です。昭和の
初めに「東京飛行場」として開港し、幾
たびもの拡張工事を経て、現在は国内国
際線合わせて1日の発着回数が千回を
超える日本の重要な世界の玄関口です。
「先端」と「文化」の両産業を柱にして、
日本のものづくりの技術や日本各地域の
魅力の発信拠点とする「羽田イノベーション
センター」も開業し、「国際都市におお
た」を感じることが出来ます。また「SD
GS未来都市」「自治体SDGSモデル事
業」に大田区はダブル選定され、環境問
題をはじめとした地球レベルの課題、将
来の予測が困難な時代と言われる未



120周年の式典とまとい

夢と希望と…羽田小学校 祝120年 古と未来そして感謝

来に向かって、挑戦していく「HANEDA
AGROBAL WINDGS」。これからの
時代、未来をつくっていくために羽田空
港と連携して学びを深めていきます。

また昭和62年に、東京都教育委員会
人権尊重教育推進校に指定され、以降
人権尊重教育を推進してまいりまし
た。今年度1月23日に研究発表会を行
います。研究主題を「関わり合い、認め合
い、未来を拓く子供の育成」としていま
す。学校教育目標に「いのちを大切にす
る子」を掲げる羽田小学校です。自分
も相手も大切にするとともに、家庭や地
域の方々と連携して、子供も大人も「学
び合い、支え合い、高め合える」学校、そ
して大人も子供も幸せに生きることが
できる力を高める※「ウェルビーイング」
な学校を目指しています。個人、社会全
体のよりよい状態、幸せを考えることが
できる教育活動を行っていきます。

120年の間、地域に大切にされ育まれて
きたことに感謝し、羽田小学校は「古と
未来、そして感謝」をテーマに地域とと
もにある学校、学校を核とした地域づく
りを目指して進んでまいります。

(羽田小学校校長 渡部 理恵子)

※ウェルビーイング：心身と社会的な健康
を意味する概念。



羽田を支えてきた校舎

おうち食堂ネットワーク 〜すべてのおうちは社会資源〜 家崎桃子

おうち食堂はコロナ禍に仕事を退職
した私が羽田三丁目の自宅に孤食の子
を招いたことが始まりでした。悲しい虐
待の報道で心を痛めているのは自分だ
けではありません。この豊かな国で隣人
の小さな命が弱っている時、子育てをし
てきた先輩方はその技術を持って余して
います。なんともつたいないことだろうと
思いました。そして足りないのは食では
なく絆であり家庭と家庭をつなぐもの
が必要なのだと思えました。貧困どこ
ろか、子ども自身が隠され孤立した子
育てが増える中で、大人たちが子ども
に向ける優しいまなざしが絆を紡ぐ土
壤になると思ひ、団体を作ることを決意
しました。



栄養満点の夕食

個人宅という密室の空間で不適切な
養育が行われることは決してあってはな
りません。なので当団体の食支援につな
がるご家庭は単身者をお断りさせてい
ただいています。また小学校近くの信頼
あるご家庭に限定させていただいており
ます。そういった家にはおうち食堂のス
テッカーを配っています。子どもたちに
はこのステッカーは困った時、助けてく
れる大人がいる場所を示すものだと覚え
てもらっています。



おうち食堂のステッカー



家崎 桃子さん



習字に取り組んでいる様子



(家崎 桃子)

☆ 編集後記 ☆

皆様、新年あけましておめでとうござ
います。コロナも5類となり、各町会でも
4年ぶりにさまざまな行事が行われた
事と思います。

猛暑が続くなかお祭りも盛大に行わ
れ、活気づくことができました。今年も
各町会の行事が無事に行われることを、
編集委員一同願っております。

はばたき20 副編集委員長
兼平 恵美子

※今号発行に際しては、公益財団法人
伊東奨学会の寄付金が活用されています。
厚く御礼申し上げます。



色鮮やかな手作り入浴剤

